

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

## 東松島市教育委員会

### 1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2 調査実施日

令和5年4月18日（火）

### 3 参加児童生徒

東松島市内の小学校6年生（303人）、中学校3年生（287人）

### 4 調査結果（データ）の概要

#### 4-1 教科に関する調査結果及び分析

平均正答率（単位％） 宮城県＝仙台市除く

教科	小学6年 国語		小学6年 算数		中学3年 国語		中学3年 数学		中学3年 英語		
	年度	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R4	R5	R1	R5
正 答 率	東松島市	61	64	56	58	66	64	43	40	48	38
	宮城県	62	65	58	58	68	68	45	44	50	39
	全国	66	67.2	63	62.5	69	69.8	51	51	56	45.6
比 較	宮城県	-1	-1	-2	0	-2	-4	-2	-4	-2	-1
	全国	-5	-3.2	-7	-4.5	-3	-5.8	-8	-11	-8	-7.6

- ・小学校国語では、昨年度と比較して、全国との差が小さくなった。
- ・小学校算数では、昨年度と比較して、全国との差が小さくなったことに加え、県との差がなくなり、良好な傾向が見られる。
- ・中学校国語では、県・全国との差が開いたものの、6割以上の正答率を維持している。
- ・中学校数学では、県・全国との差が開き、依然、課題が見られる。
- ・4年ぶりの実施となった中学校英語では、県との差はあまりないものの、4割に満たない正答率であり、課題が見られる。

## (1) 小学校国語

正答率（宮城県＝仙台市除く）					正答数の差	
東松島市	宮城県	県比較	全国	全国比較	宮城県	全国
64	65	-1	67.2	-3.2	-0.1	-0.4

分類	区分	平均正答率(%)			平均正答率の差		
		東松島市	宮城県 (仙台市含)	全国	宮城県 (仙台市含)	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	69.6	70.9	71.2	-1.3	-1.6
		情報の扱い方に関する事項	61.2	62.5	63.4	-1.3	-2.2
		我が国の言語文化に関する事項				0	0
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	68.6	71.4	72.6	-2.8	-4
		書くこと	24.8	24.1	26.7	0.7	-1.9
		読むこと	66.2	69.2	71.2	-3	-5
評価の観点	知識・技能	67.2	68.5	68.9	-1.3	-1.7	
	思考・判断・表現	61.3	63.7	65.5	-2.4	-4.2	
問題形式	選択式	70.5	72.9	73.6	-2.4	-3.1	
	短答式	59.9	61.2	62.7	-1.3	-2.8	
	記述式	48.4	48.8	61.1	-0.4	-12.7	

- ・「書くこと」の問題の正答率は、県の正答率を上回っており、無解答も少ない傾向にある。しかし、記述式の問題では、ある程度問題を理解して記述されていても、すべての条件を満たしていない解答が多いことから、授業の中で、条件を付けた課題を提示し、書く学習を行うことも大切である。
- ・記述式で解答する「読むこと」の問題でも、「書くこと」と同様の傾向にあることから、複数の資料や文章について読み比べ、それを基に、要約したり、自分の考えをまとめたりする学習を積み重ねることが重要である。

## (2) 小学校算数

正答率（宮城県＝仙台市除く）					正答数の差	
東松島市	宮城県	県比較	全国	全国比較	宮城県	全国
58	58	0	62.5	-4.5	-0.1	-0.8

分類	区分	平均正答率(%)			平均正答率の差	
		東松島市	宮城県 (仙台市含)	全国	宮城県 (仙台市含)	全国
学習指導要領の領域	数と計算	62.3	64.2	67.3	-1.9	-5
	図形	42.8	45.3	48.2	-2.5	-5.4
	測定				0	0
	変化と関係	65.6	68.1	70.9	-2.5	-5.3
	データの活用	62.8	63.6	65.5	-0.8	-2.7
評価の観点	知識・技能	62.8	64.9	67.2	-2.1	-4.4
	思考・判断・表現	50.8	53	56.5	-2.2	-5.7
問題形式	選択式	53.6	55.1	57.7	-1.5	-4.1
	短答式	70.7	72.4	74.7	-1.7	-4
	記述式	39.5	43	47.3	-3.5	-7.8

- ・答えに至る過程を大切に授業づくりが行われてきたことが、結果として表れている。
- ・図形の領域で、正答率が低く、課題が見られる。ある程度の知識は身に付いているが、理解をより確かなものにするために、身に付けた知識を基に、試行錯誤したり、他者に説明したりする学習活動を充実させることが効果的であると考えられる。
- ・変化と関係、数と計算でも図形と同様の傾向が見られる。多様な求め方に触れたり、答えにたどりついた過程を説明したりする場を意図的に設定し、言語化することが重要である。

### (3) 中学校国語

正答率（宮城県＝仙台市除く）					正答数の差	
東松島市	宮城県	県比較	全国	全国比較	宮城県	全国
64	68	-4	69.8	-5.8	<b>-0.5</b>	<b>-0.8</b>

分類	区分	平均正答率(%)			平均正答率の差		
		東松島市	宮城県 (仙台市含)	全国	宮城県 (仙台市含)	全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使いに関する事項	64.3	68.6	67.5	-4.3	-3.2
		情報の扱い方に関する事項	58.2	64.1	63.4	-5.9	-5.2
		我が国の言語文化に関する事項	70.2	75.2	74.7	-5	-4.5
	思考力・判断力・表現力等	話すこと・聞くこと	76.2	81.7	82.2	-5.5	-6
		書くこと	57.7	62.6	63.2	-4.9	-5.5
		読むこと	58.1	64.5	63.7	-6.4	-5.6
評価の観点	知識・技能	65.1	70.1	69.4	-5	-4.3	
	思考・判断・表現	64	69.8	69.7	-5.8	-5.7	
問題形式	選択式	68.6	73.2	73.1	-4.6	-4.5	
	短答式	61	66.3	65.6	-5.3	-4.6	
	記述式	60.8	68.2	68	-7.4	-7.2	

- ・ 思考力・判断力・表現力等の3つの領域すべてで、記述式の問いの無解答率が高い。どの領域の学習でも、よいモデルに触れる機会を設けたうえで、求められている条件に従って、書いたり話したりする学習活動を行い、適切に評価することがより必要である。
- ・ 多様な言語活動を通して、言葉による見方・考え方を育成することが重要であり、他教科の学習の土台にもなっていることを強く意識した授業づくりを充実させることが重要である。

### (4) 中学校数学

正答率（宮城県＝仙台市除く）					正答数の差	
東松島市	宮城県	県比較	全国	全国比較	宮城県	全国
40	44	-4	51	-11	<b>-0.7</b>	<b>-1.7</b>

分類	区分	平均正答率(%)			平均正答率の差	
		東松島市	宮城県 (仙台市含)	全国	宮城県 (仙台市含)	全国
学習指導要領の領域	数と計算	51.4	59.7	63	-8.3	-11.6
	図形	22.8	32.9	33.2	-10.1	-10.4
	関数	40.8	48.7	51.2	-7.9	-10.4
	データの活用	35	44.3	48.5	-9.3	-13.5
評価の観点	知識・技能	45.3	52.8	55.7	-7.5	-10.4
	思考・判断・表現	28.1	39.3	41.6	-11.2	-13.5
問題形式	選択式	37.3	42.6	45.3	-5.3	-8
	短答式	50.6	59.6	62.6	-9	-12
	記述式	28.1	39.3	41.6	-11.2	-13.5

- ・ どの領域でも、思考力・判断力・表現力等が問われる記述式の問題に課題が見られ、答えにたどりつく過程を考え、表現できる力を育成することが必要である。
- ・ 図形の領域に課題が見られる。実感を伴う活動を取り入れるなど、知識として正確に理解しただけでなく、それを基に試行錯誤する学習活動を設定することも大切である。
- ・ データの活用の領域では県・全国との開きが大きい。正確にデータを求める力を身に付けるための学習活動と、そのデータから何が分かるのかを理解して表現する力の両方を、相互に関連付けながら身に付ける学習活動の充実が求められる。

## (5) 中学校英語

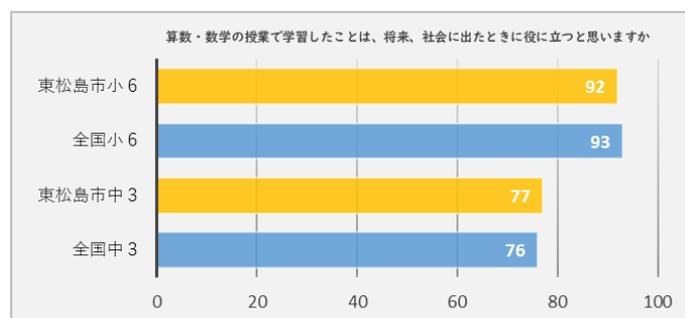
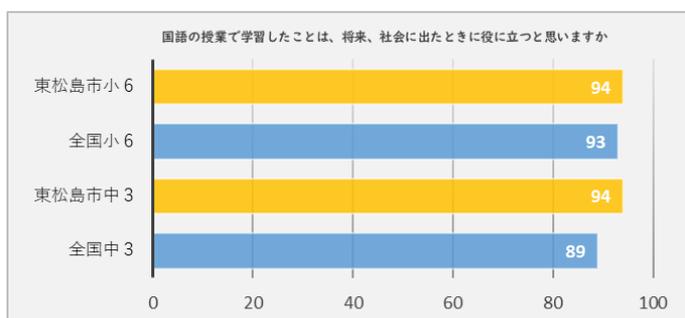
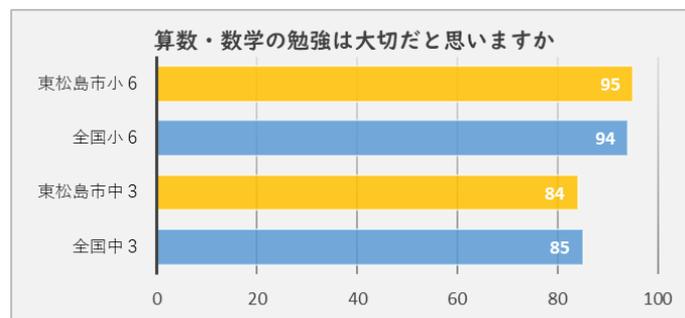
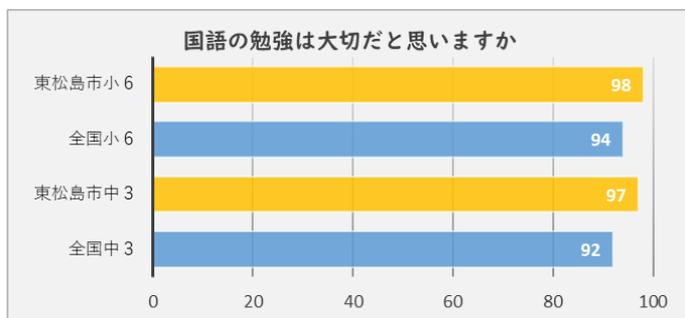
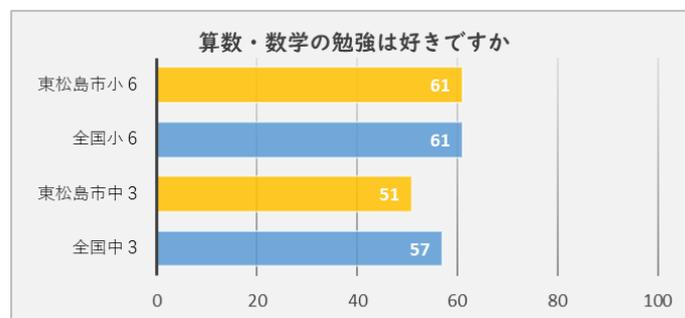
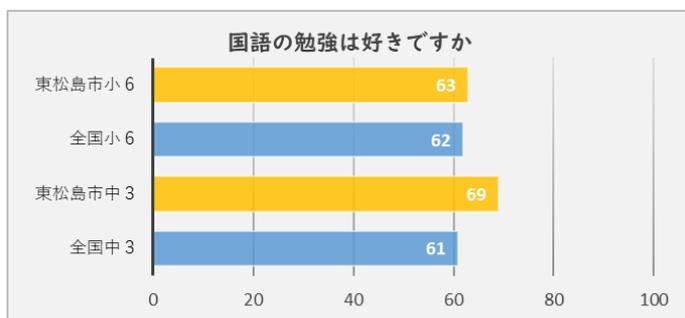
正答率（宮城県＝仙台市除く）					正答数の差	
東松島市	宮城県	県比較	全国	全国比較	宮城県	全国
38	39	-1	45.6	-7.6	-0.3	-1.3

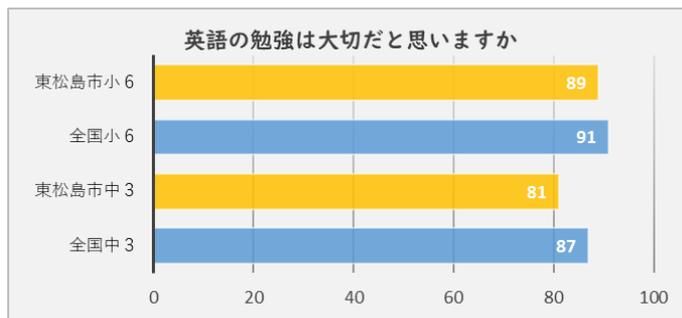
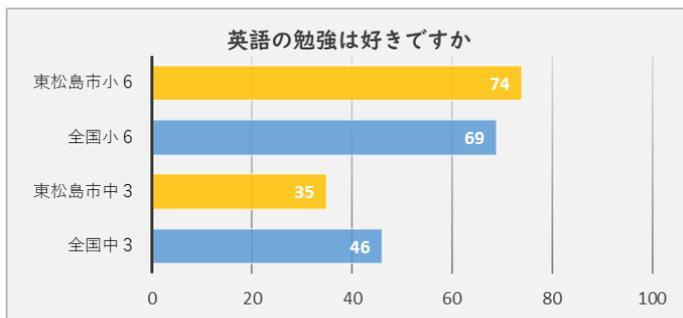
分類	区分	平均正答率(%)			平均正答率の差	
		東松島市	宮城県 (仙台市含)	全国	宮城県 (仙台市含)	全国
学習指導要領の領域	聞くこと	51	57.4	58.4	-6.4	-7.4
	読むこと	43	50.1	51.2	-7.1	-8.2
	話すこと[やり取り]					
	話すこと[発表]					
評価の観点	書くこと	15	21.2	23.4	-6.2	-8.4
	知識・技能	43	49.9	51.5	-6.9	-8.5
問題形式	思考・判断・表現	31.6	37.8	38.8	-6.2	-7.2
	選択式	47	53.8	64.8	-6.8	-17.8
	短答式	18.6	27	30.1	-8.4	-11.5
	記述式	9.6	12.6	13.5	-3	-3.9

- ・「聞くこと」に関する選択式の問題の正答率が高く、一定の「聞くこと」の力は身に付いている。英語を聞き、更にそれに関する問題の解答（絵や英文）を選択する問題では正答率が下がることから、クラスルームイングリッシュの充実や、英語教師とALTとの英語でのやり取り、英語を使った豊富な言語活動など、英語に触れる機会をより大切にする必要がある。
- ・短答式の「書くこと」に関する問題の正答率が低く、無解答率も高いことから、基本的な文法事項を理解し、正確に書く力を身に付けることが重要である。

## 4-2 児童生徒質問紙の調査結果及び分析

### (1) 学習に関すること 「好き」、「大切だと思う」、「分かる」と回答した児童生徒の割合（単位%）





### 【国語】

小・中学校共に、どの項目でも全国より肯定的な回答が見られる。国語の学習に前向きに取り組む姿勢が定着していることは、他教科の学習の基盤になる言葉に関する力を身に付けるうえでも、良好な傾向にあるといえる。この意欲を大切にしながら、話すこと・聞くこと・書くこと・読むことにおいて、課題解決的な学習を展開していくことが求められる。

### 【算数・数学】

ほとんどの項目で、全国と同等の回答となっているが、中学校で「数学が好き」と回答した生徒の割合が、全国より低い。この要因として、小学校からの積み重ねやつまずきが、中学校の数学の学習にも影響していることが考えられる。中学校数学の学習においても、生徒同士が学び合う中で、「できた」「分かった」を味わわせ、学習意欲を高める手立てを講じる必要がある。



### 【英語】

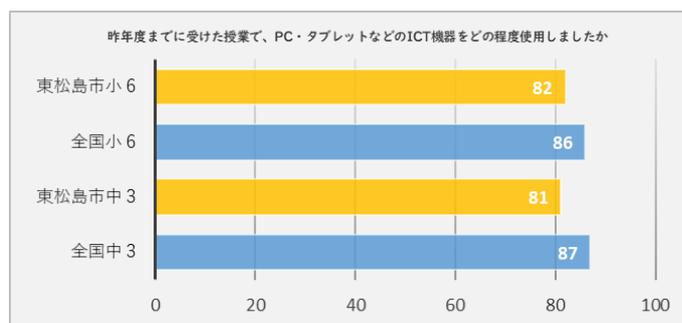
「英語の学習が好き」と回答した小学校の結果以外は、どの項目でも肯定的な回答が全国より低い傾向となった。小学校で英語の学習の楽しさを味わっても、中学校でより高次な学習に取り組む中で、難しさを感じる生徒が増加することが考えられる。また、身近に英語を必要とする職業等に触れる機会が少ないことも、英語の学習への必要感の低さに影響していると考えられる。授業の中で、英語を使う必要感を感じさせる学習課題を提示するとともに、より豊富な言語活動を展開し、できたことを実感させる授業づくりが大切である。

## (2) ICTの活用について

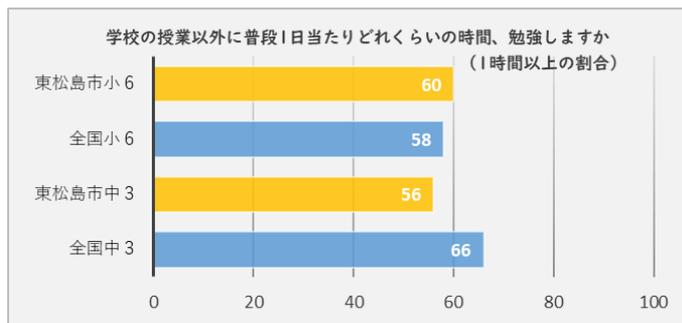
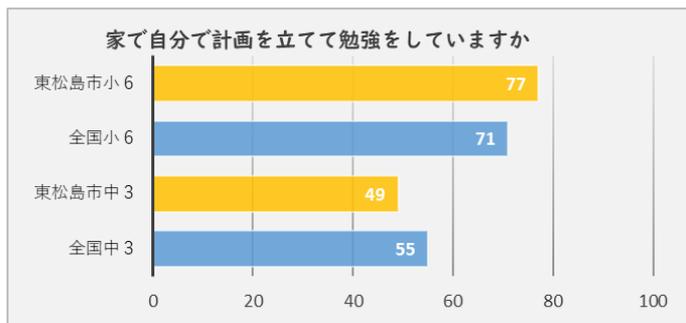
小・中学校共に、全国と比べ、使用する頻度はやや少ない。一方、電子黒板を使用した授業はどの学級でも行っており、全体で学習内容を共有するためのICT機器の活用は進んでいる。

今後、個別最適な学びを充実させるツールとして、タブレットをより活用していくことも求められる。

### 「週1回以上使用した」と回答した児童生徒の割合 (単位%)

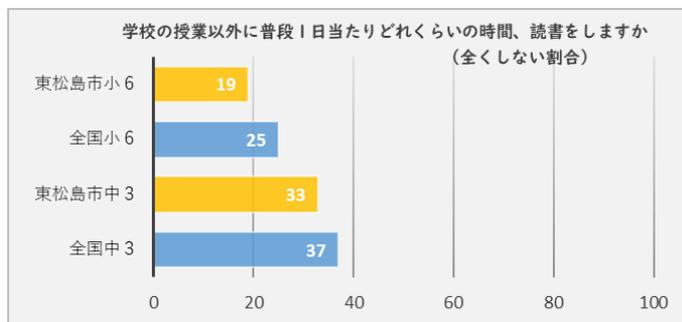
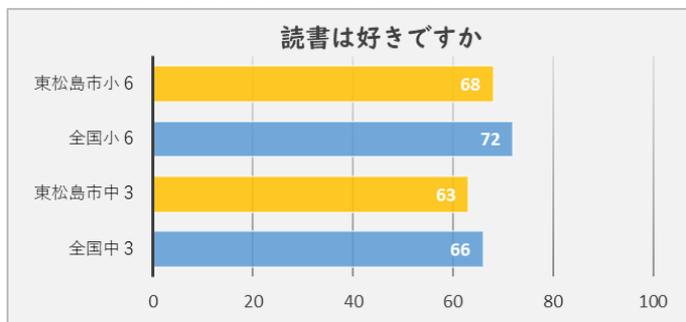


### (3) 家庭学習 (単位%)



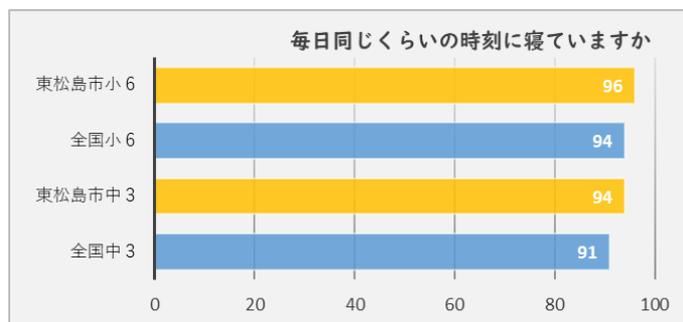
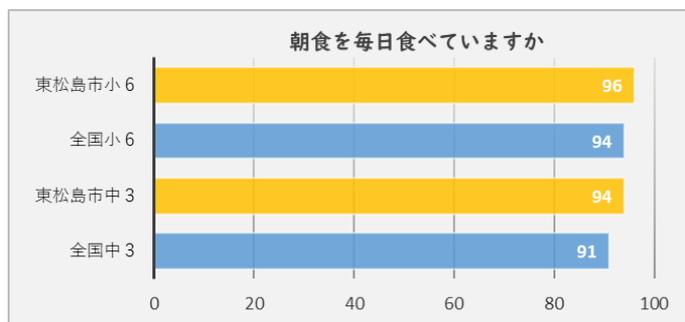
小学生は、自分で計画を立てながら、ある一定以上の家庭学習に取り組んでいることが分かる。一方、中学生は、全国と比較して、家庭学習時間もやや少なく、主体的に家庭学習に取り組めていない傾向が見られる。授業と関連した家庭学習や進路目標に向かうための学習を、これまでよりも早い段階から働き掛けることが重要である。

### (4) 読書活動 (単位%)

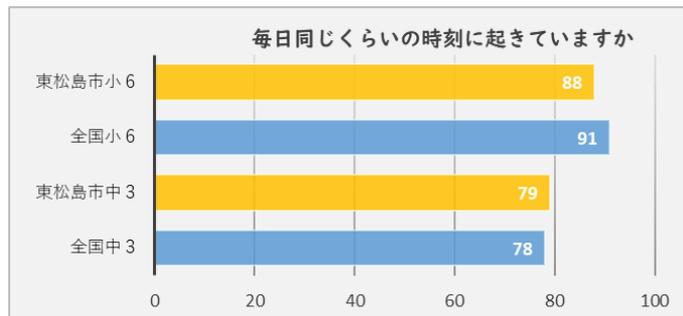


読書が好きな割合は、全国と比べるとやや少ないものの、読書を全くしない割合は、全国の割合より低いことから、多くの児童生徒が日頃から読書をしていることが分かる。各校で読書活動を推奨していることに加え、本市が推進している「デジタルメディアコントロールチャレンジ」通称「でめこん」に取り組む中で、デジタルメディアを使用する時間を児童生徒が自己管理し、読書に取り組める時間を創出していることが、この結果に反映されていると考えられる。

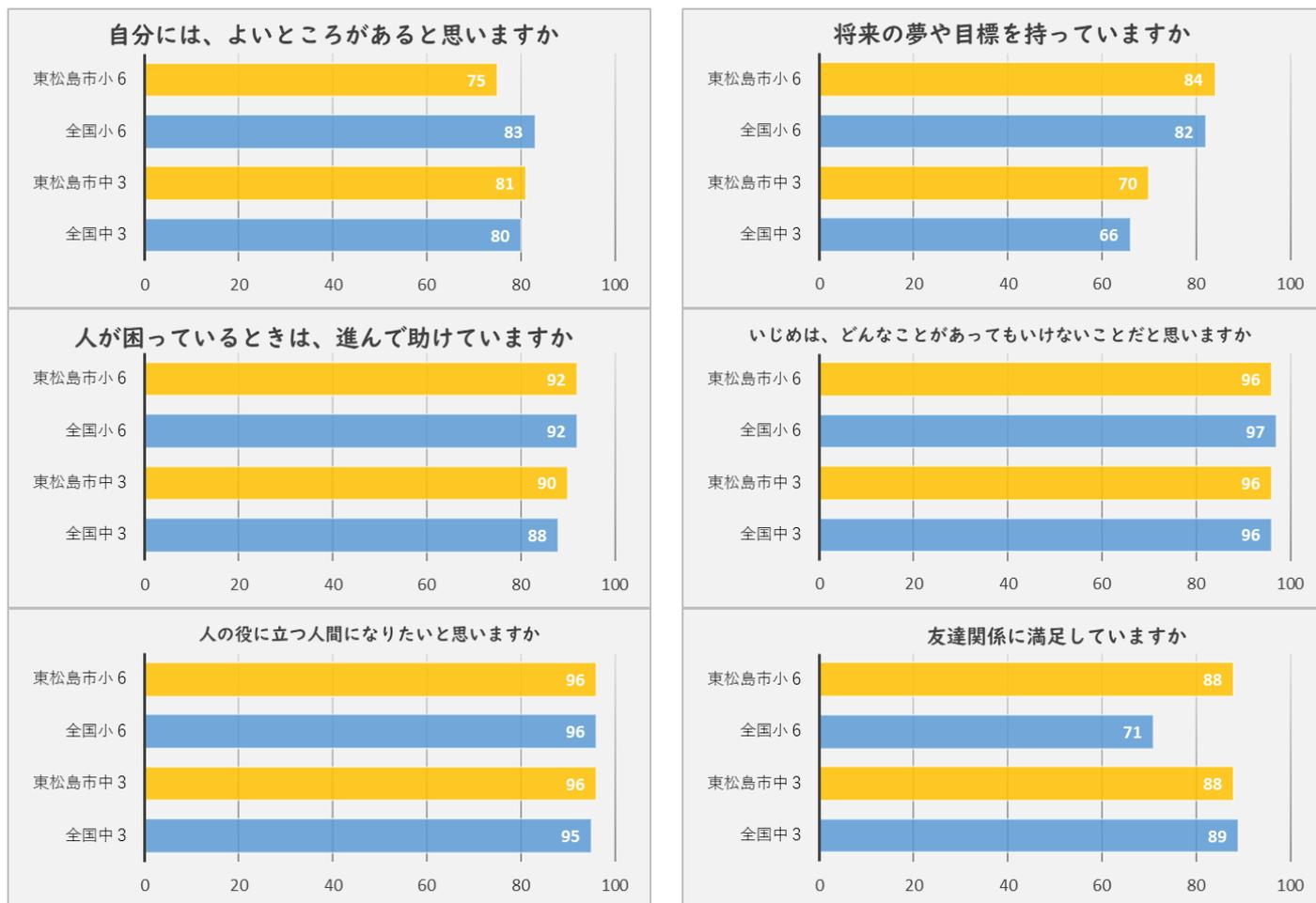
### (5) 家庭での基本的な生活習慣 (単位%)



小・中学生共に、毎日朝食を食べる習慣が身に付いており、朝食を食べられる時刻に起床していることがうかがえる。「早寝・早起き・朝ごはん」が生活のリズムを整え、学校生活を充実させるうえでも重要である。今後も家庭と連携することを継続していく。

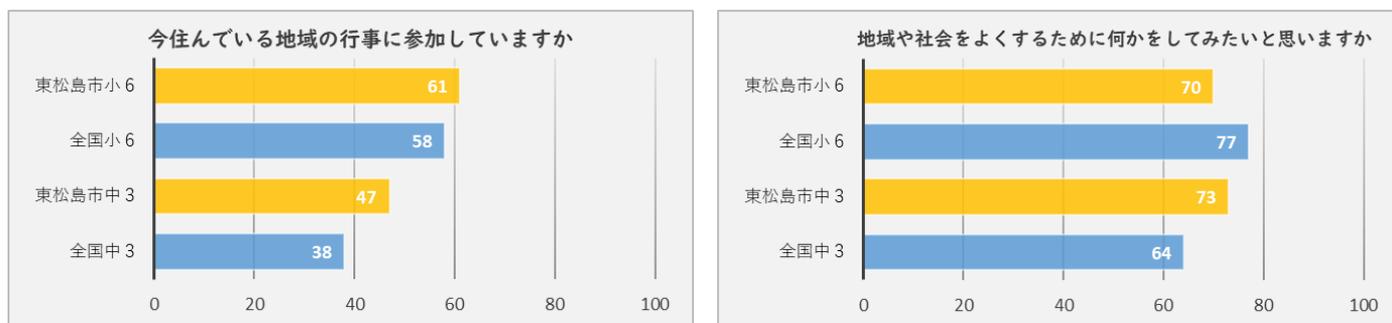


## (6) 自分や他人を大切にできる態度 (単位%)



小・中学校共に、夢や目標を持っている児童生徒の割合が全国と比較して多かった。コミュニティ・スクールの一環として学校の様々な教育活動で地域の大人が活躍する姿を、児童生徒が夢や目標を描くモデルとして目にしたり、小中連携教育の推進により小学生が中学生の活動する姿を憧れを持って見たりする機会が多くあることが背景にあると考えられる。友達関係に満足している小学生の割合が高い傾向にあり、互いを尊重する学級経営や、日々の授業の中に「協同的な学び」が浸透しつつあることが、よりよい人間関係づくりにもつながっている。自分によりよいところがあると回答した割合が小学校でやや低い傾向にあるが、今後も、よさに気付かせる働き掛けを機会を捉えて積極的に行っていく必要がある。

## (7) 地域とのかかわり (単位%)

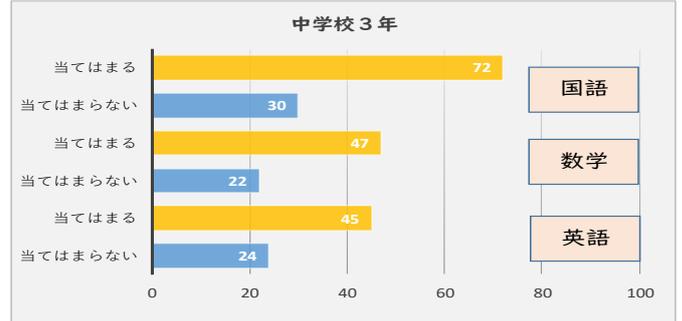
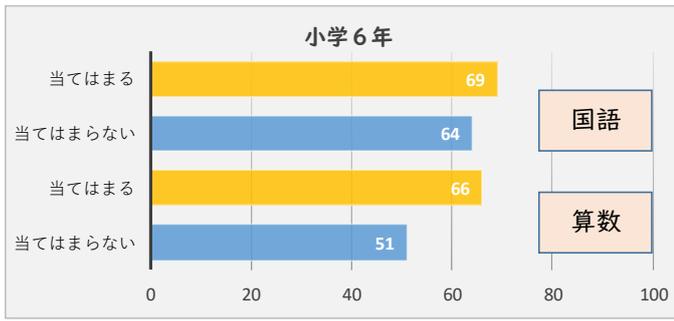


小・中学校共に全国と比べて地域の行事に参加していることは、ふるさとを愛する土壌が育つうえで良好な傾向といえる。各校で積極的に実践している地域協働学習等を通して経験したことが、地域や社会に貢献したいという中学生の思いを育てていることがうかがえる。

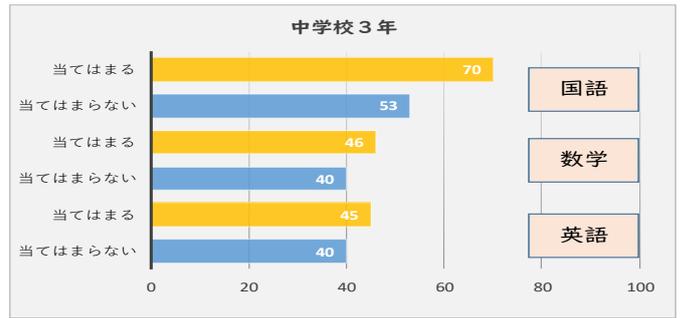
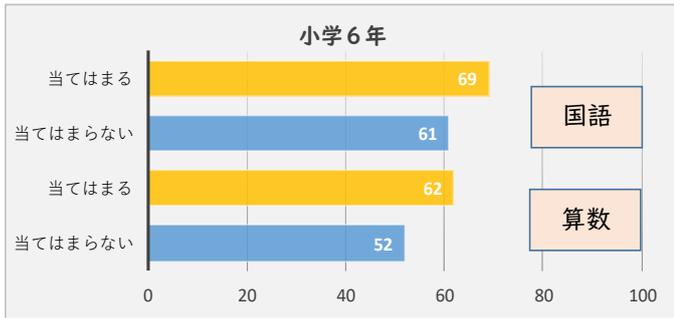
### 4—3 児童生徒質問紙の調査結果と正答率の関係

#### (1) 学習への取組と正答率の関係 (単位%)

【昨年度まで受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか】



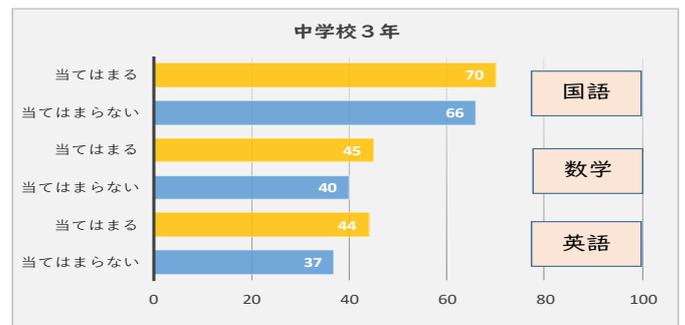
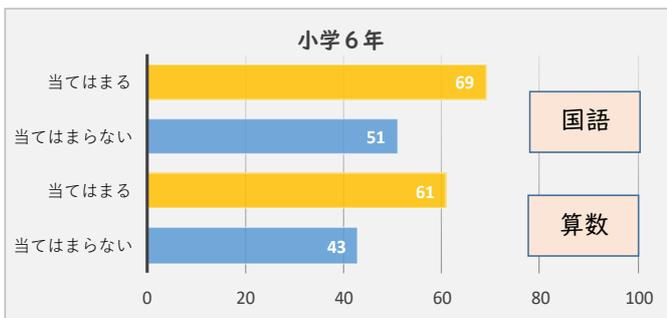
【学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか】



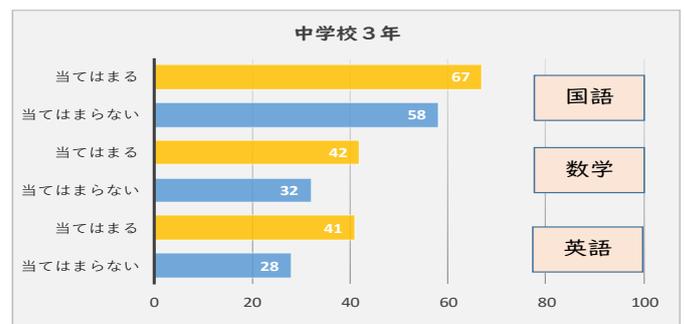
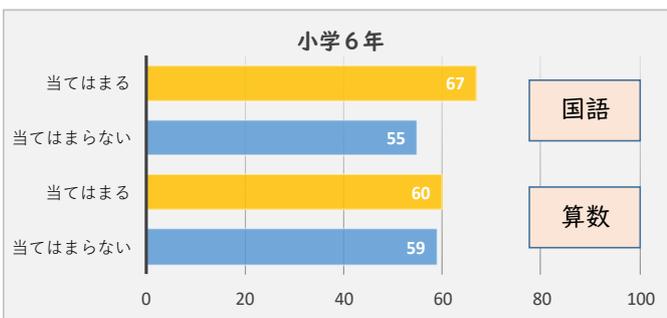
授業により主体的に取り組んでいる児童生徒ほど、正答率が高い。また、本市で取り組んでいる「協同的な学び」で大切にする学び合いを、より多く経験している児童生徒の正答率が高い。今後も児童生徒が主体となる授業づくりを展開していくことが重要である。

#### (2) 生活習慣と正答率の関係 (単位%)

【毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか】



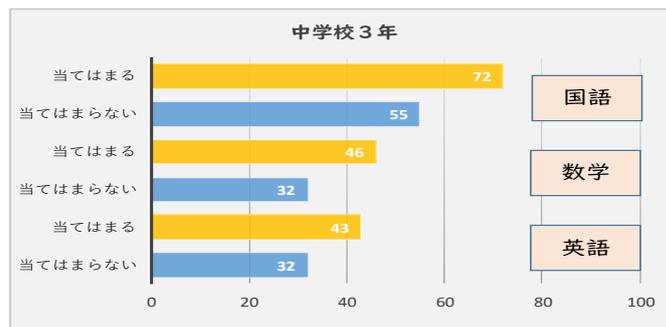
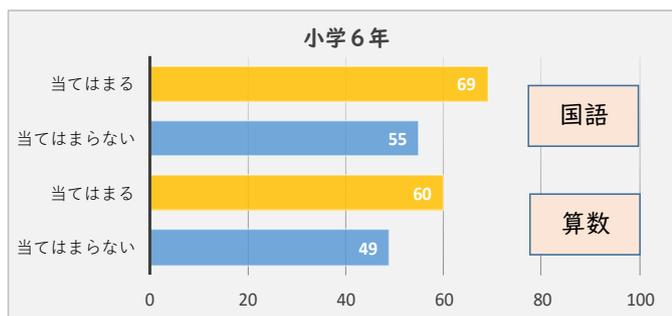
【毎日、同じくらいの時刻に起きていますか】



家庭での生活習慣が確立している児童生徒の正答率が高い。家庭での過ごし方が心身の健やかな成長に重要であることを、今後も機会を捉えて周知していくことが求められる。

### (3) 読書と正答率の関係 (単位%)

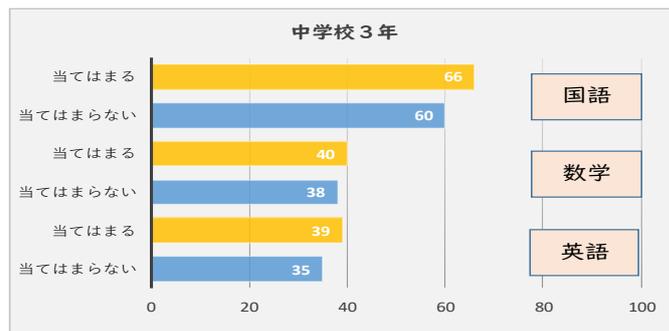
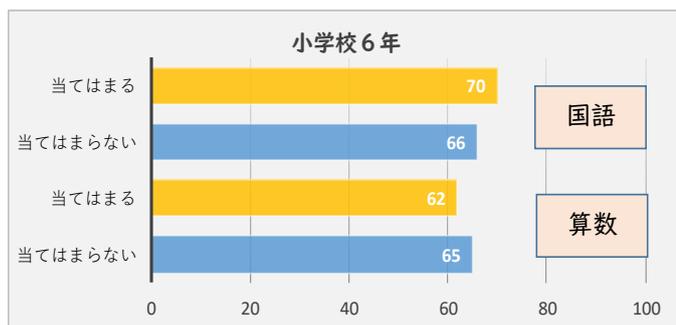
【読書は好きですか】



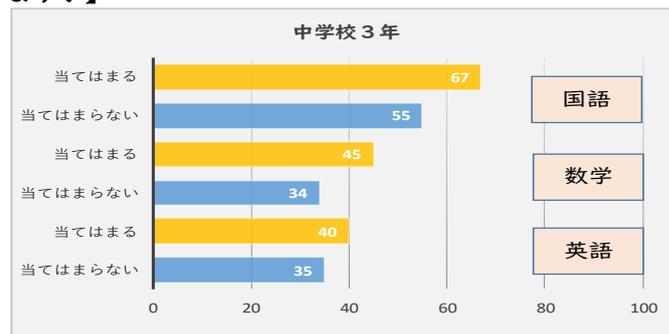
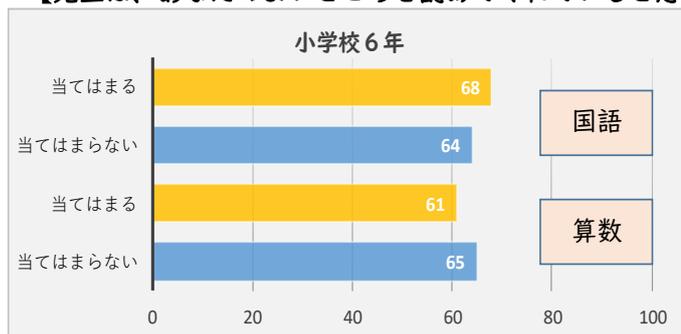
読書が好きな児童生徒ほど、正答率が高いことから、読書に親しませる環境づくりが大切である。公共図書館・学校図書室・学級図書の利用を促すことはもちろん、家庭でも普段から本を手にとれる環境を働き掛けることも重要である。本市で推進している「デジタルメディアコントロールチャレンジ」通称「でめこん」でも、デジタルメディアを使用する時間を児童生徒自身が自己管理し、読書時間等を創出する取組を、学校と家庭が連携して継続していくことが求められる。

### (4) 自己肯定感と正答率の関係 (単位%)

【自分には、よいところがあると思いますか】



【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】



小学校算数を除いて、「自分によりところがある」「先生が自分のよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒の正答率が高い結果となった。その傾向は、中学校において顕著である。児童生徒が目標に向かって努力したその過程や成果を、機会を捉えて賞賛することは、児童生徒の自己肯定感が高まり、新たな課題にも挑戦してみようとする意欲につながる。児童生徒に「出番」を準備し、「役割を与え、適切に「承認」することを今後も継続していくことで、将来の夢や目標に向かって挑戦する心を育成することが重要である。

## 5 「確かな学力」の育成に向けた本市の取組

児童生徒の学習支援	教師の指導力向上	教育環境整備支援
<p><b>◎学び支援事業の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平日放課後の学習支援</li> <li>・ 長期休業での学習支援</li> <li>・ 学校教育指導員等による授業サポート</li> </ul> <p><b>◎教育課程特例校による英語活動の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国語専科指導教員・教科教育指導員による小学校低学年からの英語教育の充実</li> </ul> <p><b>◎ICT 機器の活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 電子黒板</li> <li>・ タブレット端末</li> <li>・ タブレットドリル</li> </ul> <p><b>◎読書のすすめ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員業務支援員による学校図書室の環境整備</li> <li>・ 読み聞かせボランティアの活用</li> <li>・ 市図書館との連携</li> </ul> <p><b>◎「家庭も地域も学びの場」</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ リーフレットの活用</li> </ul>	<p><b>◎校内研究・指導主事訪問の活用、小中連携教育の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業研究の充実</li> <li>・ 協働による授業づくりの推進</li> <li>・ 一人一回の研究授業</li> <li>・ 中学校区での授業づくり</li> </ul> <p><b>◎各種研修会の実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 協同的な学びの充実研修会</li> <li>・ 授業づくり研修会</li> <li>・ ICT活用研修会</li> <li>・ プログラミング教育研修会</li> <li>・ 教師塾 等</li> </ul> <p><b>◎R-PDCA サイクル5か月プラン・7か月プランの実施</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査と標準学力調査（年2回）の活用による実態把握と授業改善の対策</li> </ul> <p><b>◎魅力ある学校づくりにおける実態調査と対策</b></p> <p><b>◎学力向上推進委員会</b></p> <p><b>◎学力向上マネジメント事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学力向上マネジメントアドバイザーによる訪問指導</li> </ul>	<p><b>◎各種支援員の配置</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科教育指導員</li> <li>・ 不登校相談員</li> <li>・ 学校巡回相談員</li> <li>・ 特別支援教育支援員</li> <li>・ 教員業務支援員</li> <li>・ SC・SSW</li> </ul> <p><b>◎コミュニティ・スクールの取組充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校環境改善の支援</li> <li>・ 学校運営協議会での学力向上策検討や熟議の実施</li> </ul> <p><b>◎デジタルメディア・コントロールの推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「東松島ゴール」に向けた取組のチェック項目作成</li> <li>・ PTA・地域との連携</li> </ul> <p><b>◎学習環境整備</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業日数増加</li> <li>・ 教室へのエアコン整備</li> <li>・ ICT環境の整備</li> <li>・ プログラミング教育教材整備 等</li> </ul>

本市では、宮城県教育委員会が示している「子供の学びを支援する5つの提言～自立した学習者の育成を目指して～」を踏まえ、児童生徒の「確かな学力」の向上を図るため、上記のような取組を行っていきます。

今後も確かな学力を支える健康な体づくりと体力の向上を図りながら、「出番」・「役割」・「承認」を与え、誰一人取り残さない、温かな人間関係づくりや学級づくりを進め、将来に夢と希望を持ち、志高く生きる児童・生徒の育成に努めていきます。

## 6 保護者、地域の皆様へ

本市では、授業において子ども同士の「聴き合い」、「伝え合い」、「学び合い」のある「協同的な学び」による授業づくりを推進し、「できた」、「わかった」という充実感を味わわせ、「またやってみたい」という意欲につなげていきたいと考えております。

また、今回の全国学力・学習状況調査の結果から、家庭における「はやね・はやおき・朝ごはん」などの生活習慣の定着が学力にも影響することが明確になっています。本市で進める「でめこん」の取組でも、生活を整えるための行動目標として①平日のデジタルメディア使用時間、②平日のデジタルメディア使用終了時刻、③平日の就寝時刻について児童生徒自らが「東松島ゴール」を策定しております。デジタルメディアの使用時間を少なくすることで生まれた時間を、家庭学習時間や読書、家族と共に行う体験活動などに有効活用することも重要です。

児童生徒の確かな学力と心身の健やかな成長のために、各家庭でも以下のような取組をお願いします。

- **基本的な生活習慣（はやね・はやおき・朝ごはん）や家庭学習習慣（学年に応じた内容、時間を決めた取組等）**を身に付けさせましょう。
- **テレビ視聴時間やゲーム、携帯電話・スマートフォン等の利用**については、「東松島ゴール」等をもとに、お子さんとしっかりルールを作りましょう。
- **家庭での読書**をさらに勧め、1つのことに集中する姿勢を身に付けるとともに、文章に触れる機会を大切にしましょう。**音読**をすると、更に効果があがります。
- タブレットを持ち返った時には、**タブレットドリル**に取り組んでみるように声掛けをしてみましょう。
- 様々な場面において、子どものよさを見だし、**本気でほめて**あげましょう。
- 子どもの失敗を受け止め、次にどのようにすればよいのかを一緒に考えましょう。失敗することは、決して悪いことではなく、次の学びにつなげることが大切です。
- 郷土の自然や文化に触れる**幅広い体験**をさせましょう。

自尊感情を養いながら、将来への「志」をもたせることが、学力向上の土台であり、学習習慣や生活習慣を確立させていくことが極めて重要です。今後も、子供たちへの家庭や地域での温かい見守りやお声掛けをよろしく願いいたします。

東松島市図書館では、家族で読書に親しむ「家読」を勧めています。  
ぜひ、市図書館HPをご覧ください。



# 家庭も地域も学びの場

～望ましい生活習慣と家庭学習の習慣づくりが大切です～

## <学びを定着させる家庭学習>

東松島市学力向上推進委員会

- 1 時間を決めて、毎日取り組もう！！
- 2 分からないことは、調べたり、先生や友だちに聞いたりしよう！！
- 3 お気に入りの本を手もとに置こう！！

## <学習を定着させるには復習が大切！>

- 1 学校で学んだことを、家庭で反復すると忘れる量は少なくなります。
- 2 復習は、学んだ直後の方が効果は高くなります。

令和5年3月

## 子供の学びを支援する5つの提言

～自立した学習者の育成を目指して～

宮城県教育委員会

### 1 子供の声を受け止め、適切な支援をすることで、安全・安心に学べる環境をつくりましょう

安全・安心な居場所は、子供が充実した生活を送るための土台となります。子供の声を受け止め、個に応じた適切な支援をすることで、教師と子供、子供同士の良好な人間関係づくりに努めるなど、安全・安心に学べる環境をつくりましょう。

### 2 子供をほめること、認めることで、やり抜く力を育てましょう

子供をほめるときには、子供が努力したことを具体的にほめることが大切です。努力を認めることで、更なる意欲を引き出し、難しいことにも挑戦しようとする気持ちや、目標に向かって努力し続ける気持ちを育てましょう。

### 3 子供が様々な学び方を知り、主体的に学習ができるように支援することで、学びに向かう力を育てましょう

子供が様々な学び方を知り、経験することで、見通しを持って学習に取り組んだり、学びを自己調整したりすることができるようになります。子供自身が学びの計画を立て、自由な発想で ICT を活用できるようにするなど、自立した学習者として学び続けられるように支援し、学びに向かう力を育てましょう。

### 4 自分の考えを発表したり、交流したりする活動を充実させることで、深い学びにつなげましょう

自分の考えを発表したり、交流したりすることで、一人一人のよい点や可能性が生かされ、異なる考え方が組み合わせられ、子供の学びが豊かになります。子供が習得・活用・探究という学びの過程で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせ、深い学びができるように支援しましょう。

### 5 家庭学習の質的向上を図るとともに、読書の時間を増やす働き掛けをしましょう

起床時刻、学習を始める時刻、就寝時刻を定めるなど、生活リズムを整えながら家庭学習の時間を確保するとともに、子供自身が課題を設定したり、ICT を効果的に活用したりするなど、家庭学習の質を高められるように働き掛けましょう。また、家庭や学校で読書の時間を設定するなど、子供が読書に親しむ機会の充実を図りましょう。

第2回東松島市「子ども未来サミット」より

## 東松島市「子ども宣言2021」



わたしたちは、このまちの子どもとして、豊かな自然や人の温かさにふれ、デジタルメディアとの関わり方を考え、健康的な生活を送るために宣言します。

### <デジタルメディア・コントロール3本柱>

#### 「時間・情報・健康」

- ひ … 人との交流をふかめて、デジタルメディア・コントロールをしよう
- (時間) が … 学習やすきなこと、家族とのだんらんの時間を大切にしよう
- (情報) ま … マナーを守り、個人情報を管理しよう
- (健康) つ … 使い方を考え、食事やすいみんをしっかりとろう

(市内小・中学生が意見を交流し、令和3年7月31日に宣言しました。)

### 市内小中学生が取り組む

「デジタルメディア・コントロールチャレンジ (通称 でめこん)」

## 東松島ゴール

#### ① 平日のデジタルメディア使用時間 (家庭学習や調べもの等での使用を除く)

小学生低学年 (1~3年生): 1時間

同 高学年 (4~6年生): 1時間

中学生 (全学年) : 1時間程度

#### ② 平日のデジタルメディア使用終了時刻

小学生低学年 (1~3年生): 午後8時

同 高学年 (4~6年生): 午後8時30分

中学生 (全学年) : 午後9時

#### ③ 平日の就寝時刻

小学生低学年 (1~3年生): 午後9時

同 高学年 (4~6年生): 午後9時30分

中学生 (全学年) : 午後10時



※休日の使用時間、使用終了時刻、就寝時刻については、各家庭で話し合います。

(市内小・中学校の代表者によるオンライン会議において、令和4年5月17日に策定しました。)